

●辞書による「民主主義」の定義

本書とは別に、辞書(ネット上)で「民主主義(democracy)」を引いてみた。

一言にまとめられないが(とりあえず、個人的に、辞書から以下としておきます):

民主主義:

- ・投票により代表を決める権利を人民が有する、**政治形態**(政府システム)。
- ・属性として、**基本的人権・自由権・平等権**あるいは**多数決原理・法治主義**など。
- ・現在では、政治形態だけでなく、広く一般に「人間の自由、平等」を尊重する立場をいう。

民主主義

政治形態

- ・基本的人権 ・自由権
- ・平等権 ・多数決原理
- ・法治主義 ・など

現代では

- ・人間の自由、平等を尊重

広辞苑	語源はギリシア語の demokratia で、demos(人民)と kratia(権力)とを結合したもの。 権力は人民に由来し、権力を人民が行使するという考えとその政治形態。	古代ギリシアの都市国家に行われたものを初めとし、近世に至って市民革命を起こした欧米諸国に勃興。 <u>基本的人権・自由権・平等権あるいは多数決原理・法治主義などがその主たる属性</u> であり、また、その実現が要請される。
大辞林	人民が権力を所有し行使するという政治原理。権力が社会全体の構成員に合法的に与えられている政治形態。	ギリシャ都市国家に発し、近代市民革命により一般化した。 <u>現代では、人間の自由や平等を尊重する立場</u> を示す。
大辞泉	人民が権力を所有し行使する政治形態。	古代ギリシアに始まり、一七、八世紀の市民革命を経て成立した近代国家の主要な政治原理および政治形態となった。 <u>近代民主主義においては、国民権・基本的人権・法の支配・権力の分立などが重要とされる。現代では政治形態だけでなく、広く一般に、人間の自由と平等を尊重する立場</u> をいう。
新辞林	(1)人民が権力を所有し行使するという政治原理。権力が社会全体の構成員に合法的に与えられている政治形態。 (2)人間の自由や平等を尊重する立場。	(1) ギリシャ都市国家に発し、近代市民革命において展開された。
日本大百科	民主主義のもっとも基本的な内容としては、人民多数の意志が政治を決定することをよとする思想や、それを保障する政治制度あるいは政治運営の方式、と要約できよう。	この意味では、第二次世界大戦後の現代国家のほとんどは、成年男女に普通・平等選挙権を認めているから、資本主義国家であれ社会主義国家であれ、それらの国々を民主主義国家とよぶことができよう。
Cambridge Dictionary:	the belief in freedom and equality between people, or a system of government based on this belief, in which power is either held by elected representatives or directly by the people themselves:	人々の自由と平等に対する信念。またはこの信念に基づいた政府システムであり、権力は選挙で選ばれた代表者、または直接人民自身によって保持される。
Oxford dictionary	1. [uncountable] a system of government in which the people of a country can vote to elect their representatives 2. [countable] a country that has this system of government 3. [uncountable] fair and equal treatment of everyone in an organization, etc., and their right to take part in making decisions	1. 人民が投票して代表者を選出できる政府システム 2. 統治システムを持つ国 3. 組織などの全員の公正かつ平等な扱い、および意思決定に参加する権利
Longman dictionary	1 [uncountable] a system of government in which every citizen in the country can vote to elect its government officials 2 [countable] a country that has a government which has been elected by the people of the country 3 [uncountable] a situation or system in which everyone is equal and has the right to vote, make decisions etc	1 全人民が投票して政府職員を選出できる政府システム 2 人民に選出された政府を持つ国 3 誰もが平等で、投票、決定などの権利を有する状況またはシステム

「結び 民主主義の未来」の章から

●著者の「はじめに」の問いと、「結び」での回答

回答の「→」は私の追加。

著者は、「民主主義」はこれだと特に言っていない。

「民主主義」は政治の制度だが、経済、統治方法、軍(他国との緊張関係)などの状況により、それぞれの「民主主義」は異なるのでは。


つまり「民主主義！」と叫んでも、各人の頭の中身/国の体制は異なるのでは。

筆者の問い はじめに(P3)		著者の回答 結び(P244)	
A1	民主主義は多数決だ。	Yes	A1「民主主義は多数決だ」は正しい。 但し A2「少数派の意見を尊重しなければならない」の条件を満たす限りにおいて。 →「多数決が原理だが、少数派を尊重せよ」。いい話だが「少数派の尊重」の許容幅が広過ぎ？
A2	少数派の意見を尊重しなければならない。	Yes	
B1	選挙を通じて国民の代表書を選ぶのが民主主義だ。	Yes	B1 と B2 は、「対抗的でありつつも相互補完的に」捉えるのが妥当であろう。 →両方 Yes で、かつ両者の相互補完って？ なんだかわかりません。
B2	選挙だけが民主主義ではない。	Yes	
C1	民主主義とは国の制度のことだ。 (国民が主権者 → 国民の意思を政治に反映する仕組みが民主主義)	Yes	C1 と C2 の両側面があることを前提に、「両者を不断に結びつけていくこと」こそが重要だ。 → ところで用語。C1 は「国民＝国」。C2 は「人々」。両者をどのように使い分けているのか。(人々＝その国に住む国民以外の人も含む？ それとも民主主義国家といわれる国々の人を指しているの？ 両者？) ※ B-2 の記載、それでいいの。 「平等な人々がともに生きていく社会」と書かれており、「人々が平等とともに、」ではない。 「平等な人々」って何？(平等の権利を持った人々？)
C2	民主主義とは理念だ。 (平等な人々 → 共生する社会をつくる過程が民主主義)	Yes	

●民主主義の4つの危機(「序」P18)と、4つの危機を乗り越えて(「結び」P256)

序で指摘した4つの危機への著者の展望。

ポピュリズムの台頭	2016年:ブレグジット 「置き去りにされた白人」vs「移民、外国人労働者」。前者にとってはポピュリズムは民主主義の勝利を意味する。(ポピュリズムと民主主義の難しい関係) トランプ支持 「置き去りにされた白人(ラストベルト)」 ①既成政党への失望、②グローバル化への反発。 ↓			
	現代のポピュリズムは: 以下の解決なしには、容易に乗り越えることができない。			
	<table border="1"> <tr> <td>①代議制民主主義への不信</td> <td>選挙や政党のあり方についての刷新が不可欠。 選挙例: 1票を分割して政治家/政党へ。</td> </tr> <tr> <td>②グローバルな格差拡大を背景</td> <td>容易に解答発見不可。 不平等が拡大するに任せてしまえば、民主主義の維持不可能。 グローバルな財産所有の民主主義の模索が 21 世紀民主主義の最大のアジェンダ。</td> </tr> </table>	①代議制民主主義への不信	選挙や政党のあり方についての刷新が不可欠。 選挙例: 1票を分割して政治家/政党へ。	②グローバルな格差拡大を背景
①代議制民主主義への不信	選挙や政党のあり方についての刷新が不可欠。 選挙例: 1票を分割して政治家/政党へ。			
②グローバルな格差拡大を背景	容易に解答発見不可。 不平等が拡大するに任せてしまえば、民主主義の維持不可能。 グローバルな財産所有の民主主義の模索が 21 世紀民主主義の最大のアジェンダ。			

<p>独裁的指導者の増加</p>	<p>「民主国家」vs「独裁的国家」</p> <p>→ 根本的な、民主主義への懐疑。民主主義は本当に人類共通の未来か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長にとって自由民主主義は不可欠か(決定の時間がかかる)？ 独占体制がベター？ <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期的には、独裁的手法が効果的。 ・しかし、政治システムが長期的に発展するためには、民主主義がはるかに有効。 <p>独裁的手法：人々は受動的。権力者に以前。</p> <p>民主主義：多様性を許容する政治システムである。</p> <p>しばしば誤った決定を下すが、自己修正能力あり。</p>
<p>第4次産業革命とも呼ばれる技術革新</p>	<p>産業革命： 蒸気機関(機械化) → 大電力(大量生産) → コンピュータ(自動化)</p> <p>→ 「第4次産業革命」AI(IOT、ロボット、ナノテク、バイオテク)</p> <p>デジタル専制主義の将来？</p> <p>↓</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>サイバー空間 vs キャパが決まっている物理空間 ↓ 新たな/混迷の時代？</p> </div> <p>本書の射程を大きく超える問題。</p> <p>民主主義を基軸に人類の歴史を振り返った本書の視座から → 平等化のメカニズムは(停滞、一時的逆行があっても)前進していくはず。この前提が基本になるべき。</p> <p>これまでの産業革命をみると → 「技術の変化」先、「社会の変化」後。(両者に時差)</p> <p>民主主義、政治、社会の変化 → 人々の生活、価値観が変化に適應するまでに数十年。</p>
<p>コロナ危機</p>	<p>民主主義は緊急事態への対応不可？</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独裁的な対応 → 一時的には有効 → 長期的には選択肢を狭める。 ・国家権力の拡大(追跡アプリでの個人情報把握) → 個人の管理。要監視。 ・国境を超えた市民社会の強化が不可欠。 → 国家、グローバル企業による情報独占のチェック。 <p>自由と民主主義にとってのキー： 「国家 vs 社会」の緊張ある関係。</p> <p>※ 21世紀においては「社会」とはグローバルに連帯した市民社会を指すはずです。</p> <p>現在は国境により人々の自由交流が妨げられ、自国中心的なメンタリティが横行。</p> <p>いずれこれを乗り越える動きが生まれてくるでしょう。</p> <p>↑</p> <p>→ 超楽観主義では？ 学者さんですから、別にいいんですが。</p>

===参考(自分がピックアップしたものだけ。理解の範囲で記載です)===

古代ギリシャの民主主義(P44)

①官僚なし、③職業軍人なし、③神官支配なし → 市民が戦う → 市民が国政へ(戦わない女性は、国政参加権利ない)

民主主義と戦争との密接な関係： 平民が戦争に参加 → 平民の力が台頭 → 政治的力

古代ローマの共和制(P78)

共和制の理由：以下の3つを組み込み堕落防止にトライ。

- 君主制 → 堕落 → 僭主政(独裁政治)
- 貴族制 → 堕落 → 寡頭政(少数者が権利を握る)
- 民主制 → 堕落 → 衆愚政(烏合の衆化)

アメリカ独立

君主制(植民地だったし) → 独立 → 共和制(君主のいない政治体制) → 民主主義

フランス革命

貴族制、封建制 → フランス革命 → 共和制(君主のいない政治体制) → 民主主義

----- 言葉が色々あってどうも理解が(本以外も)

日本の 立ち位 置(赤)	経済システム: 資本主義 vs 社会主義 vs 共産主義(もはやないようだ) 社会主義自称国: 中国・北朝鮮・ベトナム・ラオス・キューバの5か国
	政治システム: 民主主義 vs 新自由主義(政治積極介入せず規制撤廃。サッチャー、レーガン) 全体主義(個人・集団の自立性なし。ナチス、スターリン)、自由主義
	(統治システム): 君主制 (統治: 国王、皇帝、首長、教皇、 天皇(皇帝))。即位: 世襲制、選挙制(マレーシア) 立憲君主制(民主主義と両立)、 象徴君主制(日本、スウェーデン) (民主主義と両立) 絶対王政の国も一部まだあり。 共和制(君主なし。国民が選挙で代表者選出=大統領) 大統領+首相もあり。(独: 首相の方が権限大。メルケル首相) 民主主義とは限らぬ国にもある (民主的な選挙が行われていない。朝鮮民主主義人民共和国)
	専制主義(権力が特定の個人や少数者の手に集中)
	自由民主主義(=自由民主制)(自由主義+民主主義融合)

●WWII 後の民主主義(P189)

米大統領(ルーズベルト)の大儀 → 民主主義 vs 全体主義(ナチス)

・民主主義は良いか(フロム)

ナチスの台頭の背景: ・自由 → 孤独や不安 → 安定求め、権威への従属
(そもそもヒトラーは民主的に選出されたし)

要は、民主主義は経済に翻弄される。

経済が良い間(よい国)では格差平等化に働くが、そうでない場合は格差拡大

・戦後民主主義の安定: **経済と民主主義の密接な関係**(自由民主主義と市場経済が互いに支える)

西側など: 福祉国家へ→格差平等化

高度成長、相続税、累進課税導入 → 社会保障制度充実(「資本家・富裕層」、「労働者」間にコンセンサス)

↓

1970年代(オイルショック) → 経済鈍化 → 財政赤字 → 福祉国家の維持困難

↓

英:「ゆりかごから墓場まで」廃止 → サッチャー、規制撤廃、自由競争促進

サッチャー、レーガン、中国(鄧小平) → 「市場の時代」 → のちのグローバリズムへ

↓

格差再び拡大

↓

民主主義の不安定化(民主主義を支える中間層の没落)(→→→第4次産業革命/デジタル専制主義?)

●日本の民主主義

7年間の占領下。戦後すぐに実施。

- ・婦人参政権(1946)
- ・労働組合結成の奨励(1945)
- ・学校教育の民主化(1946, 47)
- ・秘密警察の廃止
- ・国家と神道の分離
- ・財閥解体
- ・農地解放
- ・(日本国憲法(1946))

END